

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4 年 1 月 12 日

事業所名 寺子屋オレンジキッズ

		チェック項目	はい	いいえ わからない	工夫している点 改善点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	基準以上のスペースを確保している。
	2	職員の配置数は適切である	6	1	基準以上の人員を確保している。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	1	段差をなくしたり、手すりを付けるなどをしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、換気やアルコール消毒などはこまめに行っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	3	その都度問題が起きた場合には、その場で話し合い、解決をして業務にあたっている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	2	保護者向けの評価表を実施しており、その内容についてスタッフで会議を行い、改善につなげている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	3	保護者向け、事業所向けの両方をホームページにて公表している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	6	現在、第三者評価は取り入れていない。その代わりに、研修の機会などがあれば積極的に参加し、スタッフで会議をすることで業務の改善につなげている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1	研修の機会があれば積極的に参加している。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	支援に取り組んでいるものだけでなく、支援の様子を見ているものも評価をして課題点を分析などを行うことで、より客観的に判断するようにしている。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	4	現在、アセスメントツールを限定して使用していないが、課題・もしくは疑問点などが出た場合には、解決するまで会議を行っている。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	1	保護者様にもより理解しやすい計画書を作成するために、なるべく具体的な支援内容・方法を記入している。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	計画書に沿って行っている。また、計画書とは別の内容のことに取り組む場合には、その都度保護者様に説明をしている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	3	チーム単位で行っている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1	毎日の支援の中で、課題点などがある場合にはその都度修正をしている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	0	書くお子様のニーズに合わせて作成している。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	2	開始前に打ち合わせを行うことは出来ないが、支援をする中でその都度修正点があれば、修正している。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	4	その他の業務との兼ね合いを考慮して、行える時はしている。また、問題点がある場合には、必ず解決するようにしている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	1	支援終了後、必ず記録をとるようにしている。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	2	支援方針の見直しが必要な場合には、その都度変更をし、スタッフ間で共有している。	
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	責任者が必ず参画している。	
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	4	現在、要望がないため連携は控えているが、要望があれば行う。	

関係機関や保護者との連携	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	2	5	現在、医療的ケアが必要なお子様がいないため、行っていない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	1	6	現在、医療的ケアが必要なお子様がいないため、行っていない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	2	要望がある場合には、積極的に行っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	5	要望がある場合には、積極的に行っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	5	研修の機会があれば積極的に参加している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	6	現在、要望がないためあえて行っていないが、要望があれば行う。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	6	現在、要望がないためあえて行っていないが、要望があれば行う。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	毎日の送迎や連絡ノート、または月ごとに配布しているお子様の様子にて共通理解を持てるように務めている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	4	要望があれば行う。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	契約時に必ず説明をしている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	1	計画書をお渡しする場合には、説明を行ったり、または要望がある場合には面談などを行うことで同意を得ている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1	送迎や連絡ノートにて相談に応じている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	6	現在、要望がないためあえて行っていないが、要望があれば行う。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	2	相談があった場合にはその場で周知し、迅速に対応している。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	4	月に1度、お子様の様子を配布している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	十分に注意し、スタッフにも周知してある。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	必ず行っている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	6	現在は行っていないが、機会があれば行う。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	3	マニュアルを作成し、また保護者様には契約時に説明をしている。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	年に1度、行っている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	1	契約時などに必ず保護者様からお聞きし、スタッフに周知してある。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	2	契約時などに必ず保護者様からお聞きし、スタッフに周知してある。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	2	ノートを作製している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	4	研修の機会があれば積極的に参加している。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	4	現在、身体拘束を必要とするお子様がいないためあえて行っていないが、必要があれば適切な対応をする。